

## 第28回群馬移植研究会学術講演会

日 時：平成 18 年 10 月 26 日 (木) 午後 6 時 30 分～  
会 場：群馬大学医学部附属病院内 臨床大講堂  
会 長：森下 靖雄 (群馬大学医学部附属病院院長)  
当番世話人：鈴木 和浩 (群馬大院・医・泌尿器病態学)

### 〈一般演題〉

座長：羽鳥 基明 (群馬大院・医・泌尿器病態学)

#### 1. 未治療の重症 B 型肝炎に対し B 型肝炎キャリアーをドナーとして生体肝移植を行った一例

末廣 剛敏, 志村 龍男, 鈴木 秀樹  
新木健一郎, 出津 明仁, 浅川 香織  
岡田 幸士, 桑野 博行

(群馬大院・医・病態総合外科学)

高木 均, 森 昌朋

(群馬大院・医・病態制御内科学)

【はじめに】 未治療の重症 B 型肝炎に対し B 型肝炎キャリアーをドナーとして生体肝移植を行った症例を経験したので報告する。【症 例】 55 歳女性。肝疾患での受診歴なし。今年 5 月初めより、全身倦怠感、体重増加あるも放置。黄疸に気づき 6 月 7 日近医受診。肝不全強く 6 月 8 日移植目的にて当科紹介。総ビリルビン 28.3mg/dl, PT27%, 血小板 5.4 万, クレアチニン 1.5mg/dl, Child13 点, MELD スコア 34. HbsAg 陽性, HBeAg 陽性, HBV-DNA 4.2。ドナーは次女 33 歳。HbsAg 陽性, HBeAg 陰性, HBV-DNA 3.7。肝機能は正常。6 月 11 日, 右葉グラフトを用いた生体肝移植施行。B 型肝炎再発防止にはラミブジンと HBIG を使用した。術後経過良好にて術後 71 日目に自宅退院となった。【まとめ】 B 型肝炎硬変に対してキャリアーをドナーとして生体肝移植を行った。ラミブジンと UBIG の使用により現在のところ HBV-DNA は陰性化している。

#### 2. 腎移植患者における移植後糖尿病の危険因子

山本康次郎

(群馬大院・医・薬効動態制御学)

GJ Burckart, V Pravica, IV Hatchinson

(School of Pharmacy, University Southern California)

D Min (St.Vincent Medical Center)

T Shah (Western University)

R Mendez

(National Institute of Transplantation)

2001 年から 2005 年に St.Vincent Medical Center で腎移植を受け、移植後糖尿病 (PTDM) を発症した患者 129 名および非発症患者 199 名を対象として、PTDM 発症の危険因子を探索した。術前に糖尿病であった患者、人種に関する情報が得られなかった患者は除外した。ロジスティック回帰分析の結果から、40 歳以上、sirolimus 投与、死体腎、2 年以上の透析、BMI25 以上、ウイルス感染の存在が PTDM 発症の危険因子であると考えられた。さらに、IRS1, PPAR- $\gamma$  の遺伝子変異と PTDM に有意な関連が認められ、これらの遺伝子解析が PTDM 発症リスクの評価に有用である可能性が示唆された。

#### 3. 裂口蓋裂患者における顎裂部骨移植の経験[第 3 報]

根岸 明秀, 中曽根良樹, 茂木 健司

(群馬大院・医・顎口腔科学)

口唇裂口蓋裂の治療は、審美性、吸吸機能の回復を目的に口唇形成術、その後、言語機能を考慮して口蓋形成術が行われるが、合併する顎裂に対する治療は放置されてきた。近年、歯列不正、後遺する口鼻瘻の問題から歯槽骨再建の必要性が認識され、一貫治療の重要な部分を占めている。特に腸骨海綿骨による骨移植は再生医療と考えられ、口腔内という汚染された術野にも関わらず、安全かつ良好な成績が得られている。演者らは、これまで術前に移植に要する海綿骨重量の算定法を報告した。今回、本法により移植骨重量を予測して行った顎裂部骨移植症例に対し、術後の形態評価を行ったので報告する。